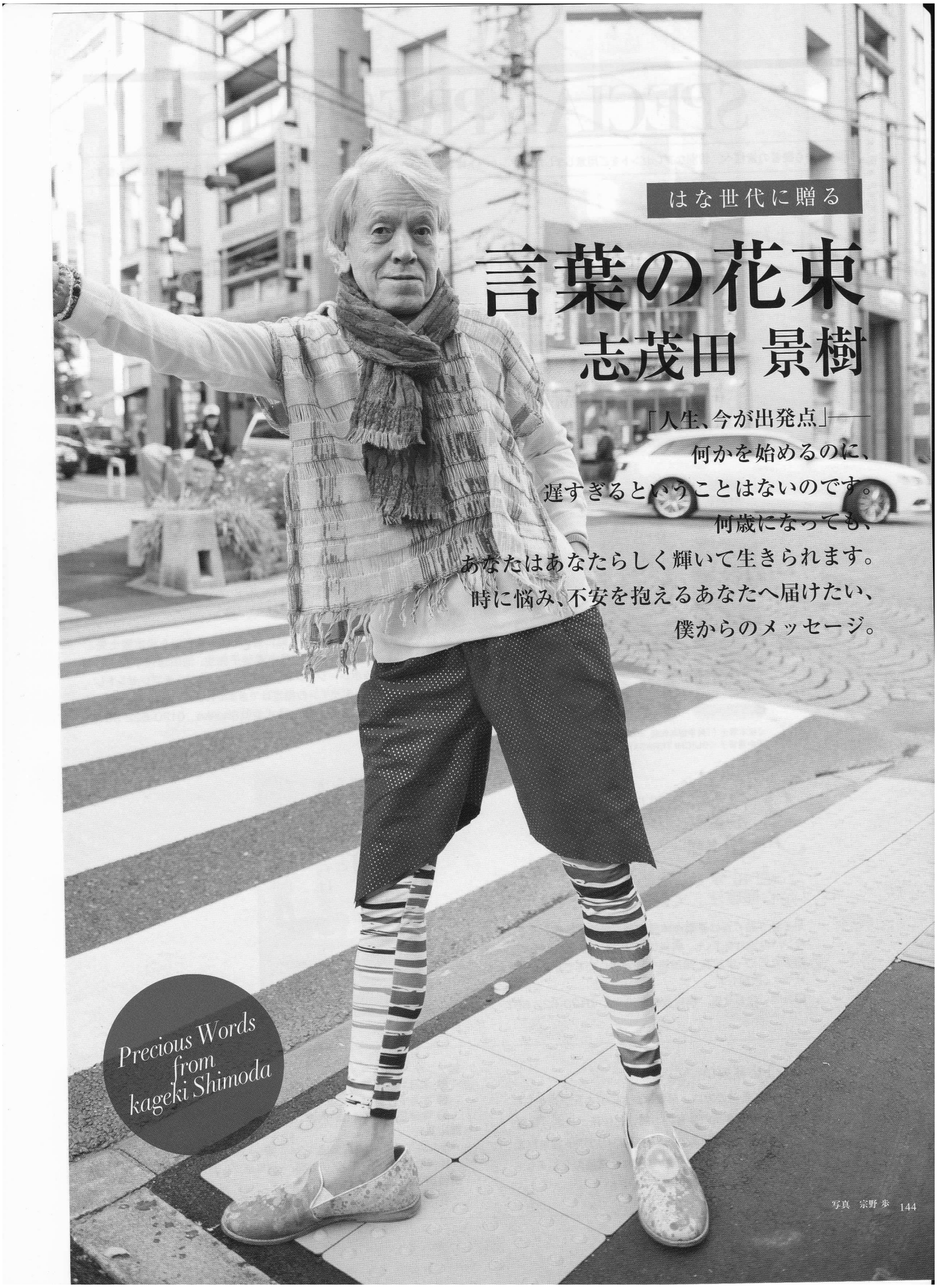


はな世代に贈る

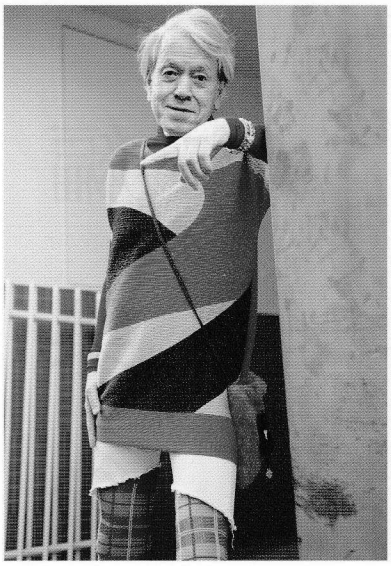
言葉の花束

志茂田 景樹

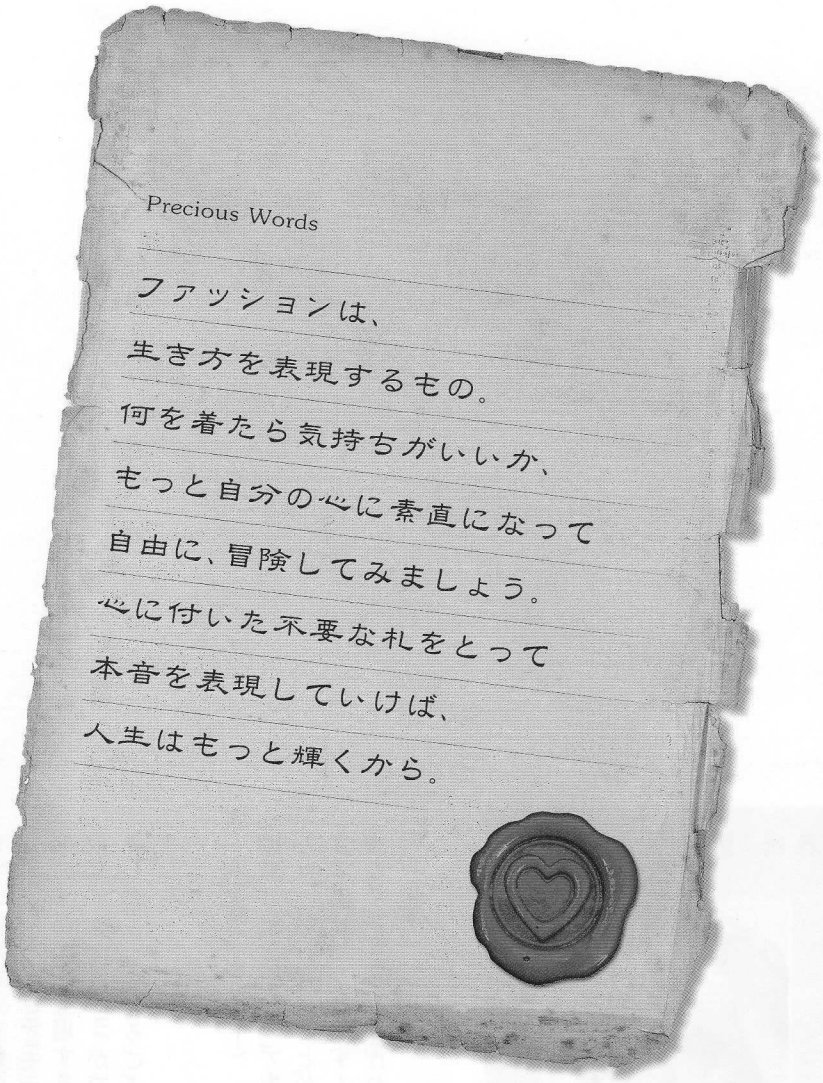
「人生、今が出発点」——
何かを始めるのに、
遅すぎるということはないのです。
何歳になっても、
あなたはあなたらしく輝いて生きられます。
時に悩み、不安を抱えるあなたへ届けたい、
僕からのメッセージ。

Precious Words from kageki Shimoda

写真 宗野 歩



志茂田景樹
1940年生まれ。40歳のとき『黄色い牙』で直木賞を受賞し、ミステリー、歴史、エッセイなど多彩な作品を発表。1996年、自作の絵本や童話を発行する出版社、KIBA BOOKを立ち上げる一方で、1998年より子どもたちへの絵本の読み聞かせ活動を全国で行う。2010年から開始したツイッターでは、心に響く名言や人生相談への的確なアドバイスが共感を呼び、多くの愛読者がいる。



言葉というのは本音なのか、駆け引きで言っていることなのかわからないときがあります。でもファッションというのは、見た目がすべて。ある意味、言葉より正直にその人の生き方を表すものです。ファッションを楽しむことは、生きることを楽しむことかもしれません。

僕も昔から、こんなに自由なファッションだったわけではありません。直木賞をもらった40代後半、自分の心や生き方を窮屈に感じていたときのことです。

ニューヨークから帰国したアパレル関係の知人が、「似合うから」とタイツをお土産にくれたのです。マリリン・モンローがたくさんプリントされたカラフルなタイツ……。「何でこんな物を？　男ははかないだろう」と思いましたよ。

でも、どうしても気になるのではいてみたら、とても気分が良かったんです。潜在意識に眠っていた心地良さと本心がむくりと刺激されて、うごめいたのを感じました。タイツをもらったことが引き金となり、ファッションとは自分が着たいものを着て、自分を正直に表現することだと気づいたんです。

人は無垢な心で生まれますが、成長と共に世渡りの術を身につけて、神社のお札で言うと虚飾な札や傲慢な札、貪欲な札といった不要な札をたくさん心に張り付けていく。

ファッションで自分を正直に表現することでそういった札がはがされて、心が軽やかになったんでしょうね。以来、自分がどんどん変わっていきました。

仕事をリタイアしたり、家族の役割にしばられたりすることが少なくなったアクティブシニアの世代こそ、もっと自分を解放して、自由にファッションを楽しんだらいいと思います。僕が目覚めた30年前は珍しい服装を排除するような目が社会に多くありましたが、時代が変わり、日本も人それぞれの表現が受け入れられる社会になってきました。

弾けたファッションをしても誰にも迷惑なんか掛からない、むしろ着てみたいものを着ておかないと後悔することになりますよ。

おすすめしたいのは高級ブランドや派手なものを身につけて自分を誇示することではなく、自分の魂が喜ぶファッションです。心の不要な札をとって、自由な心でファッションを楽しみましょう。自分が生き生きとしているのを感じることができますよ。